安 全 デ ー タ シ ー ト

作成日2009年12月10日
改訂日2013年3月8日

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	キングマキシム
製品コード	０１０２００５
会社名	日本マルセル株式会社
住所	〒116-0002　東京都荒川区荒川２－２３－３
電話番号	０３－３８０３－１７５１
緊急時の電話番号	０３－３８０３－１７５１（担当：技術開発部）
FAX番号	０３－３８０５－００３９
メールアドレス	
推奨用途及び使用上の制限	フロアーポリッシュ塗膜の剥離。定められた用途以外に使用しないこと。

2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性	分類対象外又は分類できない	
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	区分外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分１Ａ
	眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分１
	呼吸器感作性	区分１
	皮膚感作性	区分１
	生殖細胞変異原性	区分外
	発ガン性	分類できない
	生殖毒性	区分２
	特定標的臓器・全身毒性(単回曝露)	区分１(神経系、肝臓)
	特定標的臓器・全身毒性(反復曝露)	区分１(神経系、精巣、消化管、肝臓、腎臓、呼吸器)
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性（急性）	区分３
	水生環境有害性（慢性）	区分外
	オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語　　危険

危険有害性情報
重篤な薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
神経系、肝臓の障害
長期又は反復ばく露による神経系、精巣、消化管、肝臓、腎臓、呼吸器の障害
水生生物に有害

注意書き　【安全対策】
使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく洗うこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。
汚染された作業衣を作業場から出さないこと。
粉塵／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入しないこと。
汚染した衣類を再使用する場合には洗濯すること。
環境への放出を避けること。

【救急処置】

飲み込んだ場合：	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
吸入した場合：	空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
ばく露又はその懸念がある場合：	ばく露した時、又は気分が悪い時は、医師に連絡すること。ばく露又はその懸念がある時は、医師の診断／手当てを受けること。気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。
皮膚に付着した場合：	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。多量の水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
眼に入った場合：	直ちに医師に連絡すること。水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

【保管】　涼しく換気の良い場所で、施錠して保管すること。

【廃棄】　内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

国・地域情報　　情報なし

３．組成、成分情報

単一製品・混合物の区別　混合物
一般名　剥離剤

化学名又は一般名	化学式	濃度(%)	官報公示整理番号 （化審法・安衛法）	CAS番号
２－アミノエタノール	H2N-CH2-CH2-OH	１６．２	(2)-301	141-43-5
非イオン系界面活性剤	非公開	非公開	あり	非公開
陰イオン系界面活性剤	非公開	非公開	あり	非公開
有機溶剤	非公開	非公開	あり	非公開
水	H2O	非公開	対象外	7732-18-5

＊労働安全衛生法　**名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令18条の2別表第9)**
２－アミノエタノール(政令番号　第21号)：１０－２０％含有
＊化学物質排出把握管理促進法（ＰＲＴＲ法）　**第1種指定物質(法第2条第2項、施行令1条別表第1)**
２－アミノエタノール(政令番号 第20号)：１６．２％含有

４．応急措置

吸入した場合　空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。
皮膚に付着した場合　直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
多量の水と石けんで洗うこと。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
汚染した衣類を再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合　直ちに医師に連絡すること。
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合　医師に連絡すること。
口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
予想される急性及び遅発性症状　咳、息切れ、めまい、頭痛(吸入)。眼、皮膚、粘膜の痛み、発赤(接触)。腹痛、灼熱感、下痢(経口)。
最も重要な兆候及び症状　データなし
応急処置をする者の保護　データなし
医師に対する特別注意事項　データなし

５．火災時の措置

消火剤　粉末、二酸化炭素、泡、散水又は噴霧水。
使ってはならない消火剤　データなし
火災時の特有の危険有害性　火災によって、刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
製品自体は引火しないが、製品中の水分が蒸発すると燃焼する。
特有の消火方法　危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護　消火作業の際は、適切な空気呼吸器と化学用保護衣を着用すること。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置　直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（８．暴露防止措置及び保護措置の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
適切な防護衣を着けていない時は破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
風上に留まる。
低地から離れる。
環境に対する注意事項　河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
環境中に放出してはならない。
回収、中和　乾燥土、砂や不燃材料で吸収する。あるいは覆って密閉できるポリ製空容器に回収する。吸収や回収したものは、後で廃棄処理する。
封じ込め及び浄化の方法・機材二次災害の防止策　危険でなければ漏れを止める。容器を回収する。
排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い
技術的対策　『８．ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気装置・全体換気　『８．ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気装置、全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項　換気の良い場所で使用すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。
容器は丁寧に取扱い、使用後は密栓する。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
眼に入れないこと。
粉塵／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入しないこと。
取扱い後はよく洗うこと。
接触回避　『１０．安定性及び反応性』を参照。
保管
技術的対策　取扱う場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
混触危険物　『１０．安定性及び反応性』を参照。
保管条件　容器は直射日光を避け、涼しく換気の良い場所で保管すること。
容器を密閉し、施錠して保管すること。
容器包装材料　他の容器への小分け、移し換えは不可。

８．ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない
許容濃度（ばく露限界値、生物的ばく露指標）	２－アミノエタノール（製品には１６．２％含有） 3ppm　7.5 mg/m3（2005年版、日本産業衛生学会） TLV-TWA 3ppm、 TLV-STEL 6ppm（2005年版、ACGIH） その他の成分については、設定されていない。
設備対策	この製品を貯蔵ないし取扱う作業場には、洗眼器と安全シャワーを設備すること。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。 高熱取扱い等の工程で粉塵、ヒューム、ミストが発生する時は、換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	保護手袋を着用すること。
眼の保護具	眼の保護具、顔面用の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	顔面用の保護具、全身用の保護衣を着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

９．物理的及び化学的性質

形状	液体
色	淡黄色透明
臭い	特異臭
ｐＨ	１１．８（１１．５－１２．５）
融点／凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	認められない
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度（空気＝１）	データなし
比重（密度）	１．０６－１．０８
溶解性	水に溶ける
オクタール／水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
臭いのしきい（閾）値	データなし
蒸発速度（酢酸ブチル＝１）	データなし
燃焼性（固体、ガス）	該当しない
粘度	データなし

１０．安定性及び反応性

安定性	通常の取扱い温度、圧力で安定。
危険有害反応可能性	酸化剤、酸との混触。
避けるべき条件	高温。
混触危険物質	酸化剤、酸。
危険有害な分解生成物	燃焼により窒素酸化物、一酸化炭素等の有害で刺激性のガスを発生。

１１．有害性情報

急性毒性（経口、経皮）	各成分の毒性値の合計から得られた推定毒性値が2,000より大きいため「区分外」とした。
急性毒性（吸入:蒸気、ﾐｽﾄ）	各成分の毒性値の合計から得られた推定毒性値から判断すると区分外となるが、毒性が不明な成分が１５％以上含まれているため「分類できない」とした。
皮膚腐食性／刺激性	区分１Ａの成分の濃度合計が５％以上のため「区分１Ａ」とした。
眼に対する重篤な損傷／刺激性	眼刺激性区分１の成分の濃度合計が３％以上のため「区分１」とした。
呼吸器感作性	区分１の成分がカットオフ値１％以上含まれているため「区分１」とした。
皮膚感作性	区分１の成分がカットオフ値１％以上含まれているため「区分１」とした。
生殖細胞変異原性	区分１(0.1%以上)、区分２(1%以上)に該当する成分が無いため「区分外」とした。
発がん性	区分１(0.1%以上)、区分２(1%以上)に該当する成分が無いため区分外であるが、毒性不明の成分が１５％以上含まれているため「分類できない」とした。
生殖毒性	区分２の成分がカットオフ値３％以上含まれているため「区分２」とした。
特定標的臓器／全身毒性	
単回暴露	区分１(神経系、肝臓)の成分が１０％以上含まれているため「区分１(神経系、肝臓)」とした。ただし、毒性不明な成分が３０％以上含まれている。
反復暴露	区分１(神経系、精巣、消化管、肝臓、腎臓、呼吸器)の成分が１０％以上含まれているため「区分１(神経系、精巣、消化管、肝臓、腎臓、呼吸器)」とした。ただし、毒性不明な成分が３０％以上含まれている。
吸引性呼吸器有害性	データなし

１２．環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性（急性）	(区分１の成分の濃度合計)×１００＋(区分２の成分の濃度合計)×１０＋(区分３の成分の濃度合計)が２５％以上であるため「区分３」とした。
水生環境有害性（慢性）	カットオフ２、カットオフ３、カットオフ４のいずれの条件も満たさないため「区分外」とした。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

１３．廃棄上の注意

廃棄は関連法規ならびに地方自治体の基準及び地域の条例、規則に従う。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこへ委託処理する。
排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託処理する事。

空容器等を廃棄する場合は、水洗いなど内容物を完全に除去した後処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制
海上規制情報　ＩＭＯの規定に従う。
UN No.　情報なし
Proper Shipping Name.　CORROSIVE LIQUID, N.O.S. (BASIC)
Class　8
Packing Group　情報なし
Marine Pollutant　Not applicable
航空規制情報　ＩＣＡＯ／ＩＡＴＡの規定に従う。
UN No.　情報なし
Proper Shipping Name.　Corrosive liquid, n.o.s. (basic)
Class　8
Packing Group　情報なし
国内規制
陸上規制情報　消防法、毒劇物法、労働安全衛生法に該当する場合は、該当規定に従う。
海上規制情報　船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報　航空法の規定に従う。
国連番号　情報なし
クラス　8(腐食性物質)
容器等級　情報なし
特別の安全対策　運搬に際しては輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどがないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行なう。
『７．取扱い及び保管上の注意』に従うこと。
該当法規に従い、包装、表示、輸送を行なう。

15. 適用法令

労働安全衛生法＊　名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令18条の2別表第9)
化学物質排出把握管理促進法(ＰＲＴＲ法)＊　第1種指定物質（法第2条第2項、施行令1条別表第1）
＊詳しくは「３．組成、成分情報」参照
毒物及び劇物取締法　該当しない
消防法　該当しない
火薬類取締法　該当しない
高圧ガス保全法　該当しない
船舶安全法　腐食性物質（危規則第2、3条危険物告示別表第１）
航空法　腐食性物質（施行規則第194条危険物告示別表第１）
その他の規制
内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン)　：含有しない
学校環境衛生基準検査物質　：含有しない
シックハウス･シックスクール 関連室内空気汚染物質　：厚生労働省指針値該当14物質成分は含有しない

16. その他の情報

引用及び参考文献
JIS Z 7253　化学物質安全データシート
JIS Z 7252　GHS分類標準規格
製品安全データシートの作成指針（改訂2版　(社)日本化学工業協会）
化学物質の安全データシート（安全衛生情報センター発行）
ＧＨＳ混合物分類判定システム（GHS JIS版2010-1　経済産業省）
原料メーカー発行の安全データシート

記載内容は、現時点で入手できる資料、データに基づき作成しており、新規知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いの場合は、用途や用法に適した安全性の評価と対策を実施の上ご利用下さい。記載内容は情報の提供であって、安全性を保証するものではありません。